

開封日 年 月 日

ISOPROPYL ALCOHOL (70vol%)

70%イソプロピルアルコール

70vol%

2014年11月改訂(第4版)	
日本標準商品分類番号	872615
承認番号	13127KUZ08245002
薬価収載	1959年10月
販売開始	1959年10月
再評価結果	1983年4月

貯法：気密容器に入れ、火気を避けて保存。
使用期限：3年(表示の使用期限を参照すること。)

【禁忌(次の部位には使用しないこと)】

損傷皮膚及び粘膜[損傷皮膚及び粘膜への使用により、刺激作用を有する。]

【組成・性状】 1.組成

イソプロパノール(C₃H₈O)70vol% 含有。

2.性状

無色澄明の液で、特異なにおいがある。
比重 0.872~0.883

【効能・効果】 手指・皮膚の消毒、医療機器の消毒

【用法・用量】 通常、本品をそのまま用いる。

火気厳禁

第 4 類
アルコール類
水 溶 性
危険等級 II

製造番号

使用期限

18L

製造販売元

丸石製薬株式会社

大阪市鶴見区今津中2-4-2

【使用上の注意】

1.重要な基本的注意

- (1)本剤が眼に入らないように注意すること。眼に入った場合は直ちによく水洗すること。
- (2)広範囲又は長期間使用する場合には、蒸気の吸入に注意すること。[イソプロパノール蒸気に大量に又は繰り返しさらされた場合、粘膜への刺激、頭痛等を起こすことがある。]

2.副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

	頻度不明
過敏症 ^{注)}	発疹等
皮膚 ^{注)}	刺激症状

注)このような症状があらわれた場合には使用を中止すること。

3.臨床検査結果に及ぼす影響

注射部位に発赤を起こすことがあるので、アレルギーテストの判断を妨害することがある。

4.適用上の注意

投与経路：外用にのみ使用すること。

使用時：

- (1)同一部位(皮膚面)に反復使用した場合には、脱脂等による皮膚荒れを起こすことがあるので注意すること。
- (2)血清、膿汁等のたん白質を凝固させ、内部にまで浸透しないことがあるので、これらが付着している医療器具等に用いる場合には、十分に洗い落としてから使用すること。
- (3)合成ゴム製品、合成樹脂製品、光学器具等には、変質するものがあるので、このような器具は長時間浸漬しないこと。
- (4)引火性、爆発性があるため、火気(電気メス使用等も含む)には十分注意すること。

【薬効薬理】

本剤は、使用濃度において、栄養型細菌(グラム陽性菌、グラム陰性菌)等には有効であるが、芽胞(炭疽菌、破傷風菌等)及び多くのウイルスに対する効果は期待できない。



キャップシール：PE

金属：缶、キャップ

〈調剤包装単位用コード〉



(01)04987211207939

〈販売包装単位用コード〉



(01)14987211107939

ISOPROPYL ALCOHOL

(70vol%)

70%イソプロピルアルコール

70vol%

日本標準商品分類番号	872615
承認番号	13127KUZO8425002
薬価収載	1959年10月
販売開始	1959年10月
再評価結果	1983年4月

*2008年4月改訂(第3版)

貯法: 気密容器に入れ、火気を避けて保存。
使用期限: 3年(表示の使用期限を参照すること。)

【禁忌(次の部位には使用しないこと)】

損傷皮膚及び粘膜[損傷皮膚及び粘膜への使用により、刺激作用を有する。]

【組成・性状】

- 組成
イソプロパノール(C₃H₈O)70vol% 含有。
- 性状
無色澄明の液で、特異なおいがある。
比重 0.872~0.883

*【効能・効果】 手指・皮膚の消毒、医療機器の消毒

【用法・用量】 通常、本品をそのまま用いる。

火気厳禁

アルコール類
水溶性
危険等級Ⅱ

製造番号
使用期限

製造販売元



丸石製薬株式会社

大阪市鶴見区今津中2-4-2

【使用上の注意】

1. 重要な基本的注意

- (1)本剤が眼に入らないように注意すること。眼に入った場合は直ちによく水洗すること。
- (2)広範囲または長期間使用する場合には、蒸気の吸入に注意すること。[イソプロパノール蒸気に大量にまたは繰り返しさらされた場合、粘膜への刺激、頭痛等を起こすことがある。]

2. 副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

	頻度不明
過敏症 ^{注)}	発疹等
皮膚 ^{注)}	刺激症状

注)このような症状があらわれた場合には使用を中止すること。

3. 臨床検査結果に及ぼす影響

注射部位に発赤を起こすことがあるので、アレルギーテストの判断を妨害することがある。

4. 適用上の注意

投与経路: 外用にのみ使用すること。

使用時:

- (1)同一部位(皮膚面)に反復使用した場合には、脱脂等による皮膚荒れを起こすことがあるので注意すること。
- (2)血清、膿汁等のたん白質を凝固させ、内部にまで浸透しないことがあるので、これらが付着している医療器具等に用いる場合には、十分に洗い落としてから使用すること。
- (3)合成ゴム製品、合成樹脂製品、光学器具等には、変質するものがあるので、このような器具は長時間浸漬しないこと。
- (4)引火性、爆発性があるため、火気(電気メス使用等も含む)には十分注意すること。

【薬効薬理】

本剤は、使用濃度において、栄養型細菌(グラム陽性菌、グラム陰性菌)等には有効であるが、芽胞(炭疽菌、破傷風菌等)及び多くのウイルスに対する効果は期待できない。



キャップシール: PE

金属: 缶、キャップ

GS1-RSS



(01)14987211107939

JAN



4 987211 107932